

# 日中女性の理想の肌に対する心理学的研究 —色白肌の嗜好に着目して—

## Psychological Study on Preference of Ideal Skin Color: Comparison between Japan and China

蔡 韻 (Yun Cai) 指導：齋藤 美穂

### 1. 背景と目的

日本では昔から、「色の白いは七難隠す」という表現がたびたび用いられるが、これと同義の表現が中国にも存在する。すなわち、昔から日本と中国で、色白肌が美人の条件として重視されてきたと考えられる。また、Saito (2002) の調査では、その傾向は日本より中国において、より強いことが示唆されている。

本研究では、女性の理想の肌を構成する要素を明らかにすると共に、その中で肌の色の重要性について検討することを目的とした。

### 2. 調査Ⅰ—化粧品の使用状況に関する意識調査

**目的：**日本と中国の化粧品の使用状況について確認することを目的とした。

**方法：**質問用紙に回答させた

**結果：**日本では、ほぼ毎日化粧している人が75%を占め、15%の人が常に化粧をしていた。中国では、ほぼ毎日化粧する人と常にする人を合わせて24%であった。日本の女性がファンデーションを選ぶ時は、75%の人が自分の肌色と同じ色にすると回答したが、50%の中国人女性が自分の肌よりやや白い色を選んだ。

### 3. 調査Ⅱ—肌状態に対する印象評価

**目的：**一般的に女性が不良と考える肌の状態に対する印象を整理した。特に、肌色により肌状態の印象が変えられるかどうかを検討した。

**方法：**5種の肌状態のそれぞれと、2段階の肌色を組み合わせ、計10枚の顔面頬部の肌の加工写真を作成した。これら10枚の刺激に対して12形容詞対・5件法のSD法による印象評定を課した。また、嗜好順位をつけさせた。

**結果：**因子分析（最尤法プロマックス回転）を行った結果、日本では、「魅力因子」と「性格因子」、中国の女性では、「知的因子」と「美的因子」の二つの因子が得られた。

日本と中国では全体的に色白肌に対する評価が色黒肌より高かった。一方、日本では、肌色を問わず、肌状態がよい肌問題のない人が強そうで外向的なイメージがもたれていた。中国では、肌状態が悪くなると、内向的なイメージがもたれることがわかった。中国人女性は日本人女性より、老化による問題が生じた肌に対する評価が低かったが、日本の方は毛穴が目立つ状態に対する評価が低かった。

### 4. 調査Ⅲ—理想の肌とそれを持つ女性のイメージに関する調査

**目的：**理想の肌とそれを持つ女性のイメージを明らかにすることを目的とした。

**方法：**被験者に、肌の状態を表現する47項目の形容詞の中から、「理想の肌」の状態に当てはまると思われる項目を全て選択させた。また、パーソナリティなどのイメージを表現する69項目の形容詞の中から、「理想の肌を持つ女性のイメージ」として当てはまる項目を全て選択させた。また、その中から最も当てはまる項目を選ばせた。

**結果：**日本ではファンデーションをつけなくても綺麗な肌状態に憧れていることが示された。中国では、健康的なみずみずしい色白肌に最も人気があった。なお、中国では「健康的な」感じは理想の肌状態だけではなく、理想の美肌を持つ女性のイメージとしても最もよく選ばれた。

### 5. 調査Ⅳ—肌色色票による調査

**目的：**肌色に対する自己評価と理想の肌色と実測値の位置づけを検討した。

**刺激：**肌色の為の色票「スキントーンカラー」計145色

**方法：**「スキントーンカラー」の色票によって、被験者に記憶の肌色と理想の肌色を選択させた。最後に実験者が被験者の実際の肌色を測定した。

**結果：**中国人女性の自分の肌色に対する評価は日本人女性より黄みがつよく明度が低く、憧れる肌色は日本人より赤みがあり彩度が低かった。

### 6. 総合考察・結論

日本と中国では全体的に色白肌に対する評価が色黒肌より高かった。特に中国人女性が色白肌への嗜好が非常に強かった。これは先行研究(Saito, 2002)の結果と一致する。肌を評価するとき、日本人女性が肌状態を重視するのに対して、中国人女性は肌色を優先していた。

また、中国の女性が日本人女性より、くすみがない明るい肌を追及していることが示された。

### 7. 参考文献

Saito, M. (2002) Comparative study in Japan and China concerning aspiration of Asian Women towards quality of skin fairness. 9th Congress of the International Colour Association 2002 388-391